

目的

那珂川のアユ資源を持続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行う必要がある。そこで今年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況に関する情報を収集した。

材料および方法

釣りによる漁獲状況 栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員4漁協に対し、調査票150枚を前年度の賦課金納入者数の割合に応じて配布した。各漁協がそれぞれ選定した調査員に対し、2021年6月1日の釣り解禁日から11月30日までの間、釣行日の釣獲地区（本流7地区および4支流の計11区域；図1）および釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を0として扱った。なお、回収率は69.3%であった。

投網による漁獲状況 釣りと同様の方法で調査票50枚を配布し、漁獲重量の調査を行った（投網は7月10日から区間毎に順次解禁される）。なお、回収率は62.0%であった。

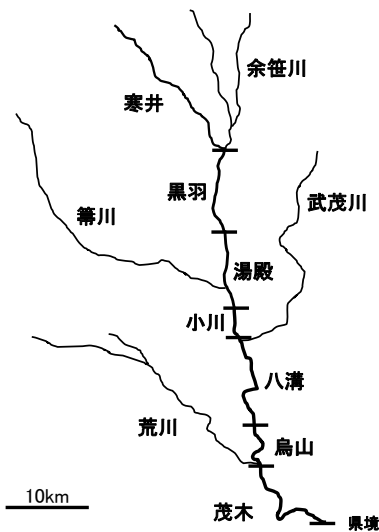


図1 那珂川における釣獲地区の区分

結果および考察

釣れ具合・獲れ具合 漁期を通じた釣れ具合は7.3尾/人/日で、平年値（1998年～2020年までの平均値）よりも2.6減少していた（図2）。また、月別の釣れ具合を比較すると、すべての月で平年値を下回る釣れ具合となった（図3）。

解禁日の釣れ具合は3.8尾/人/日で平年（9.5尾/人/

日）よりも低調であった。また、解禁日における地区別釣れ具合を比較すると、小川及び余笹川は平均を上回る釣れ具合であったのに対し、その他本流6地区及び箒川、武茂川、荒川では平均を大きく下回る釣れ具合となった（図4）。漁期を通して見ても、前年に引き続き、地区によるばらつきが大きい結果となった（図5）。投網による獲れ具合では、漁期全体の一日の獲れ具合は一人当たり2.7kgで（図2）、前年（3.8kg/人/日）及び平年（2.8kg/人/日）よりも減少していた。

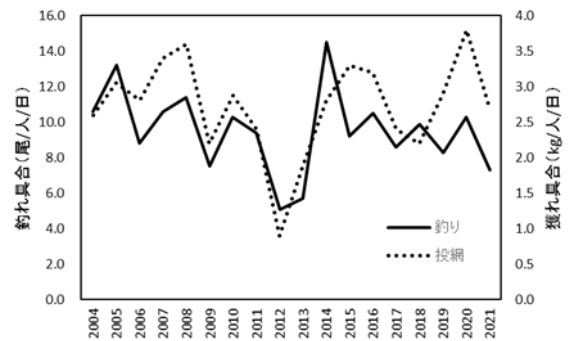


図2 釣れ具合および獲れ具合の推移

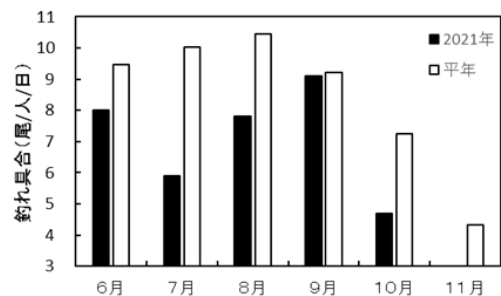


図3 釣れ具合の月別の推移

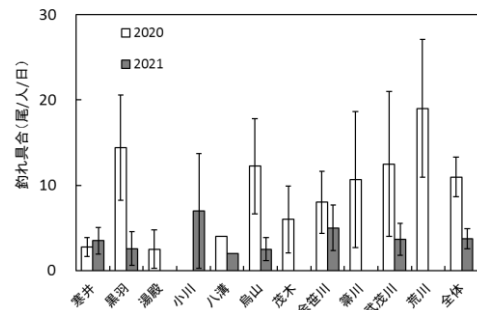


図4 地区別の釣れ具合（解禁日）
（エラーバーは標準偏差を示す）

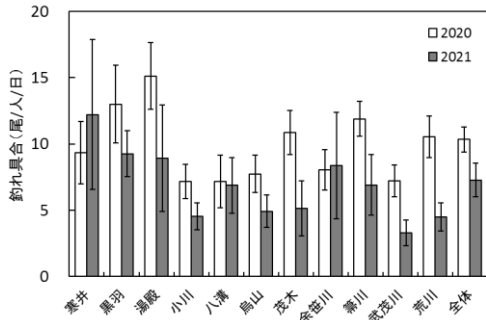


図5 地区別の釣れ具合（漁期全体）
（エラーバーは標準偏差を示す）

出漁日数 釣りの出漁日数は7.9日/人で、前年（16.8日/人）の47.0%，平年値（19.2日/人）の41.4%となった。一方、投網の出漁日数は9.8日/人で、前年（18.9日/人）から大きく減少し、平年値（11.7日/人）も下回った（図6）。

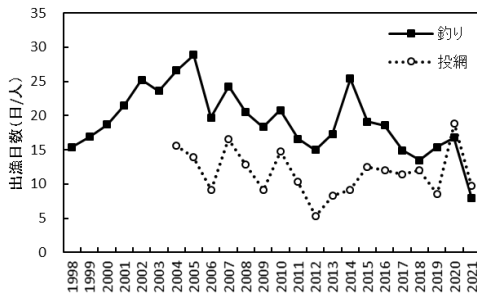


図6 釣りおよび投網の出漁日数の推移

釣獲尾数・漁獲量 釣りによる釣獲尾数は、63.6万尾で前年（189.1万尾）及び過去10年平均値（193万尾）よりも大幅に減少した。また、釣りによる漁獲量は45.2tで前年（123.1t）から減少した（図7）。地区別漁獲量では、前年と同様に黒羽地区が最も多く、黒羽、武茂川が最も少なく、すべての地区で前年を下回った（図8）。

投網による漁獲量は39.4tで、前年（120.9t）の32.6%であり、大きく減少したが、2017年から2019年と同水準であった（図7）。地区別では、烏山で前年値より増加し、箒川及び荒川では減少した（図9）。

出漁者数 釣りの出漁者数は7.1万人で前年（15.2万人）の52.0%に減少した。また、投網の出漁者数は1.6万人で前年（3.1万人）の51.6%に半減した（図10）。

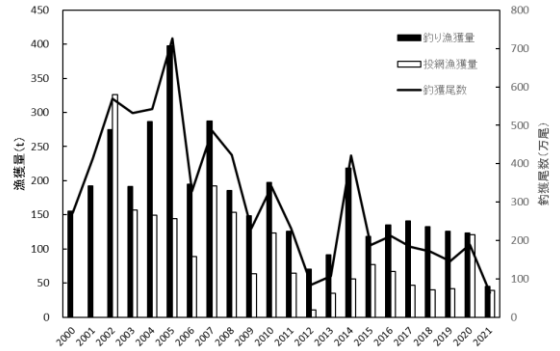


図7 釣り・投網による漁獲量および釣獲尾数の推移

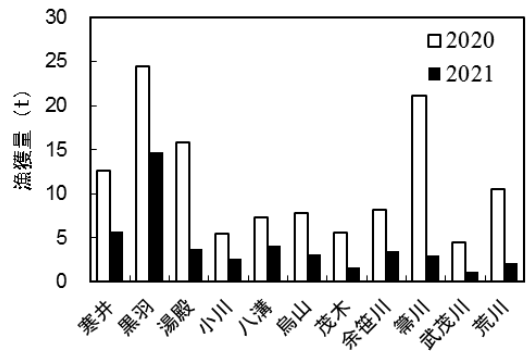


図8 地区別の漁獲量（釣り）

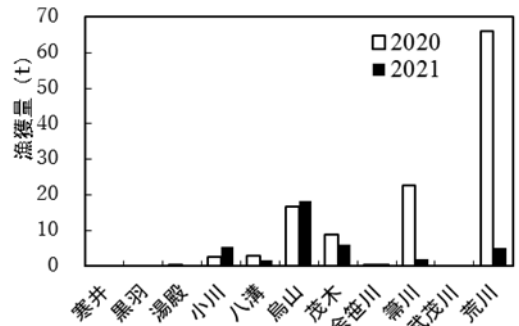


図9 地区別の漁獲量（投網）

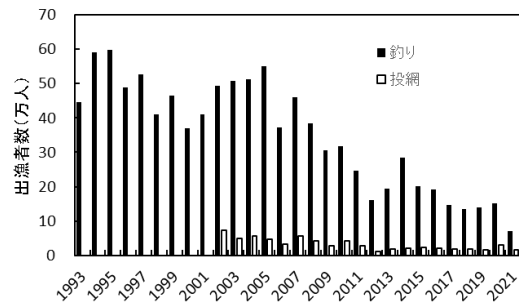


図10 釣りおよび投網出漁者数の推移

（指導環境室）